

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190500405), 法人名 (株式会社 ニチイ学館), 事業所名 (ニチイケアセンター清田 1F), 所在地 (札幌市清田区清田1条4丁目2番6号), 自己評価作成日 (令和元年8月13日), 評価結果市町村受理日 (令和元年9月27日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族様が参加していただけるようなアクティビティを企画し、入居者様と楽しい時間を共有していただいています。又、ボランティアの方による、ひよっこ踊りやウクレレ演奏による演奏会等で一緒に歌ったり、ご家族もアクティビティに参加されるなど、明るく笑顔のある拠点です。前年から継続して、引き続き、地域行事への参加(区民祭りやゴミ拾い)にも参加しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190500405-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年9月12日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

公園に隣接している自然環境に恵まれた2ユニットのグループホームである。周囲には小学校や病院があり利便性にも恵まれている。建物内部は冬季は床暖、夏季はエアコンを利用し、清掃も行き届き、快適な居住空間となっている。医療介護サービスを全国的に提供している法人を母体とし、職員研修、災害対策など協力して実施している。職員は利用者一人ひとりに笑顔で寄り添い、質の高い介護を行っている。外部研修、内部研修を行い、年2回自己評価を実施するなど、常に自己研鑽を行い、キャリアアップするよう取り組んでいる。雑祭りやクリスマス会など季節毎の行事は利用者の活性化に繋がり、利用者の表情は明るい。地域とは特別支援学級の小学生との交流や、町内会行事の河川敷清掃の参加があり、事業所主催の夏祭りには地域に開放し、家族も参加して賑やかである。誠意をもち、利用者が家庭的な雰囲気の中で健康で明るく安心して生活ができるように支援している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼やホーム会議を通じて事業所独自のケア理念を共有し、実践につなげている。	基本理念の揭示と共に、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、事務室や廊下に掲示し、朝礼や会議を通じて職員全員が共有し、実践に繋げるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	季節行事や見学会の参加を地域の方に呼びかけたり、区民祭りへ参加協力し日常的な交流に努めています。	町内会の河川敷ゴミ拾い作業や区民祭りに参加し、事業所内見学を地域の人々に案内している。近隣小学校の特別支援学級生の訪問があり、子供新聞に掲載した感想文を送ってきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方、御家族様、他事業者の方にホームを開放し、認知症の方への理解を深めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の開催に努め、利用状況や事故防止対策など、具体的内容について話し合い、参加されているご家族様からの意見をサービス向上に活かしている。	定例に開催し、地域包括支援センター職員や利用者、家族、町内会役員、近隣病院相談員などの参加がある。会議で話し合われた事項はサービス向上に活かしており、議事録や資料は家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新や札幌市オムツサービス事業を通じて協力関係を築いています。	行政担当課職員とは電話や出向くなどして連絡をとり、情報交換や相談を行っている。区や市の管理者連絡会議や研修会に参加し、行政の意向を汲みとり協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修会などを通し理解を深め、職員それぞれが意識を高め、床にマットを敷くなど工夫してケアに取り組み、努めている。	「身体拘束廃止委員会」を設置し、毎月会議で検討し、内容を記録している。マニュアルを作成し、職員の言葉遣い、介護現場での取り組みについて話し合い、全職員の周知を図り、身体拘束のないケアを行っている。玄関は日中施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で虐待防止キャンペーンを行い、ポスターを掲示、又、勉強会などを実施し、日常から防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議や勉強会を通して、成年後見制度の知識向上・振り返りを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に契約書・重要事項説明書の読み上げ、疑問や質問に答え、了承・納得して頂いた上で契約して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、法人独自のアンケートの実施、そこでの意見を運営に反映できるように努めている。又、苦情等を言い表せるように、法人及び市町村等の相談窓口の掲示や意見箱を設置している。	毎年法人独自の家族アンケートを実施し家族の満足度を調査し、運営に反映させている。毎月「通信」を発行し、家族に生活状況を伝えている。意見箱を設置し、また、本部へのコールセンターや外部への相談窓口を案内している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の実施や日常業務を通じて職員の意見や要望が把握出来る機会を設け、運営に反映できるように努めている。	個人面談を毎年実施し、職員の意見を聞いている。管理者とは会議や日常業務の中で意見交換し、職員の意見は運営に反映させている。職員自己評価を年2回行い、各自が向上心をもって業務に対応できるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の業務の評価は、ニチイ学館特有の自己評価制度というものが年2回あり、各自がより向上心を持ち、働けるような条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ニチイ学館内では、採用時に研修等で入社後の研修の機会を設けている。また外部では札幌市の認知症高齢者に関する講習等の、職員に都度、通達し受講・育成の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	清田区においては、GH管理者連絡会があり定期的に活動を行い、それを通じてサービスの質を向上させていく取り組みを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する前には、家族を通して不安なことや要望などを聞き取り、入居の際に向けて不安や困っている事柄の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	内覧時や契約時に、必ず家族が現状、困っている事や不安のこと、要望などあれば、それらに耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がその時に必要としている支援を初期の段階で見極め、他のサービス(訪問リハビリ等)の利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ホームでの生活や過ごされている時間を共に共有し、人生を共に歩んでいると考え、良い関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、自分達だけで利用者を支援できるとは考えず、家族との絆を大切にしながら、その中で家族と共に支えている関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との連携も図りながら、お墓参りや自宅での外泊、花見や地域のお祭り参加など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	家族や友人の訪問時にはゆっくり寛げるように配慮している。墓参りや自宅外泊では家族との絆が続くように支援し、地域の馴染みの祭りなどの行事には、できるだけ参加するように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居の際は、職員や他利用者との良い関係づくり・馴染みの関係になる様に心掛け、時々、共有スペースの配置を変更したりなど、利用者同士が話しやすい環境作りを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退去後も入院先の病院を訪問したり、家族との関係性を大事にしながら相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式やアセスメント用紙を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、情報収集、意向を把握し、本人本位の支援に努めている。	本人との会話や表情から意向の把握に努めている。センター方式やアセスメント用紙を活用し、家族からも情報を得て、職員間で共有し、本人の意向に沿うように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は、出来るだけ一人ひとりの生活歴や生活環境を家族から聞いて把握に努め、他、病院から移ってきた方は、担当相談員の方から、入居前に情報を頂いたり情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方は、心身状態、有する力を定期的に担当者会議で見直し、日頃のケアに生かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見や要望、医師・看護師の指導や助言、担当者会議、モニタリングを通じて職員の意見や案を反映・現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の要望を聞き、医療関係者の意見も取り入れ、担当者及び職員達が会議で検討し、計画作成担当者が中心になり作成している。3カ月ごとに作成しているが、状況に応じ随時モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の介護記録の中から職員同士でケアの事でアイデアを出しあったり、普段のケアの中での気づきなど介護計画の見直しに工夫、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望があれば、職員が付き添い、近隣住民との会話・散歩や買物に外出するなど、柔軟に支援・対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花見や区内の催事、散歩等を通して、季節感を感じてもらおうなど支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重した中で、納得されたかかりつけ医となっている。また、往診や訪問看護の利用で適切な医療を受けられるように支援している。	提携医師による月2回の往診と訪問看護がある。本人希望のかかりつけ医や他科受診の場合は家族と共に通院支援し、連絡するなど協力している。常に適切な医療を受けられるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護師に利用者毎の情報や体調の報告・相談を行い、利用者の体調管理に日々努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、入院先の担当者と情報交換を行うなどして早期に退院出来るように努めている。又、そのような事態に備え関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族の意向を踏まえ、事業所として出来ることを十分に説明しながら指針を職員間で共有、支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の対応については、早い段階で本人や家族の意向を文書で確認している。医師や看護師など医療機関と連携を取りながら、事業所として出来得る内容を伝え、家族の意向を尊重し、方針を共有して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練の時に清田消防署の担当者に緊急搬送時の対応を相談したり、搬送時に救急隊員に渡す利用者情報の資料作成などを行い、事故発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、火災自動報知器等の設備の完備と定期点検の実施、避難経路の確保を実施。また、消防署の協力を得て、年2回火災避難訓練を消防立会いの元、実施している。	消防署指導の下、年2回昼夜を想定した火災避難訓練を実施している。玄関横の壁にはハザードマップを貼り避難経路、避難場所を明示している。系列事業所との協力が期待でき、災害時備蓄も行っている。	事業所内の防災設備は整備されている。火災避難訓練は実施しているが、地震、水害の避難訓練については、今後実施予定なので期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように接客等の研修会や、社内の研修などを通して職員に周知・努めている。	接遇研修会を開き、利用者の誇りやプライバシーを尊重するように職員は言動に配慮している。個人情報書類の取り扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の思いや希望を感じとれるように、傾聴。又、利用者本人で決定できるように、働きかけ支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内での生活は、共同生活であるが、利用者のペースで(入浴の時間、居室での読書等)で過ごす事が出来るように、又、希望に沿って出来る範囲にて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容師の実施、家族の協力を得て、外出の際に理美容院に連れて行って頂いたり、また衣類も、季節ごとに家族に不足気味な物を補充して頂いたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かしながら、後片付けや準備等可能な範囲で会話をしながら楽しく行っている。また、職員と一緒におやつ作りなど楽しみごとの支援もしている。	献立には利用者の好みを取り入れている。利用者は能力に応じて、料理の下ごしらえや食器拭きを手伝い、職員と同席して会話を楽しみながら食事をしている。静かな音楽が流れ雰囲気が良い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取方法は、利用者毎の身体状況に応じ、形態(ミキサー食、刻み等)や、誤嚥がないように水分にトロミをつけるなど、個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの状態を訪問歯科衛生士や訪問歯科医の協力を得ながら相談・確認し、毎日の口腔ケアに生かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンをセンター方式や排泄チェックで把握し、トイレでの排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄記録を参考に排泄パターンを把握し、適時に声掛けをしてトイレに誘導している。パットなどの利用はあるが、できるだけトイレで排泄できるように、トイレでの排泄自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の献立メニューの中で、繊維質の食材を取り入れたり、訪問看護師、主治医と相談し、薬の調節や運動を取り入れ個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否が強い利用者にも工夫しながら支援が行われている。また、週2~3回を目安に個々の希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。	入浴は週2~3回実施しているが、希望や、タイミングにより随時入浴することができ、体調によりシャワー浴や清拭も行っている。拒否のある場合は時間変更するなど工夫し、利用者の安全、浴室の衛生管理に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じて支援している。その中で昼夜逆転が起きないように、日中を運動・レクなどで、活動的に過ごして頂き、夜はリズム良く良眠して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者に新しい薬が処方された際は、処方内容の確認をその都度行い、用法・用量を正しく使用、支援出来る様に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて行事の際に作成のお願いをしたり、入居前の趣味を活かしホームで過ごして頂けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅での外泊、お墓参りなど普段では出かけられないような場所へも出かけられるように家族と連携・協力しながら支援、取り組んでいる。	隣接する公園への散歩や、大型店でのショッピングや外食など実施している。家族と協力連携し墓参り、自宅への外泊など支援している。天候や体調を考慮しながら、できるだけ外の空気を吸い心身の活性化をはかるように配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が日常生活の便宜を図るためや、趣味嗜好品を購入する場合は、お預かりしたお小遣い金から支払いをして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話や手紙のやりとりは、家族と相談を行いながら、可能な範囲で行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって、気になる臭いや音の大きさ、光の強さなど感じられない様にその都度工夫、配慮を行っている。また、共用空間には、季節毎の作品や絵画が掲示され、本人が安心・居心地が良く過ごせるよう工夫をしている。	共用の空間はバリアフリーで清潔に安全に暮らせるように整備されている。室内には利用者と職員が制作した季節感のある色鮮やかな作品が飾られている。室内の採光、温度、湿度も適切に管理され、騒音もなく快適である。窓からは公園に遊びにくる保育園児の姿が見られ、利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥にソファとテーブルを置き、利用者同士が談笑したり、お茶を飲んだり、時にはレクリエーションをしたりと自由に使っていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら、馴染みの家具や寝具、仏壇等が持ち込まれたり、家族の写りが飾られるなど本人が居心地よく安心して過ごせるような工夫をしている。	居室には馴染みの家具や仏壇を持ち込み、家族写真を飾るなど安心して過ごせるように配慮している。収納箇所もあり程よく整頓されている。本人が居心地よく過ごせるように家族と共に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの前の床には、緑のタイルを敷き場所の目印、居室の入り口には、自分の部屋とわかるように名前を個々に装飾したりして掲示・工夫している。		